# ◎ 公 開 特 許 公 報 (A) 平3-7266

®Int.Cl. ⁵

識別記号

C 07 D 239/42 239/30 Z 6529-4 C 6529-4 C

# A 61 K 31/505 ABU

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全6頁)

**9**発明の名称 2-(4-フェニルー1-ピペラジニルアルキル) アミノー5-エ

チニルピリミジン誘導体並びにその中間体及びその製造法

②特 願 平1-140408

②出 顋 平1(1989)6月2日

⑩発明者 磯部 敏男 千葉県千葉市検見川町1-39 河内屋荘⑩発明者 長尾 尚 千葉県船橋市東中山1-17-9 菅原荘101号

⑫発 明 者 高 師 美 穂 千葉県松戸市紙敷226-17

⑫発 明 者 宮 垣 充 弘 千葉県佐倉市宮前1-14-2

**⑫**発 明 者 伊 藤 茂 神奈川県横浜市南区日野南 3 - 7 - 13 - 402

⑪出 願 人 白鳥製薬株式会社 千葉県習志野市津田沼6丁目11番24号

⑪出 願 人 日立化成工業株式会社 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号

⑭代 理 人 弁理士 有賀 三幸 外2名

最終頁に続く

1. 発明の名称

2 - (4 - フェニル - 1 - ピペラジニルア ルキル) アミノ - 5 - エチニルピリミジン

誘導体並びにその中間体及びその製造法

- 2. 特許請求の範囲
  - 1. 次の一般式(目)

$$H_{2}C$$

$$N H - (CH_{2})_{n} - N$$

$$N H - (CH_{2})_{n} - N$$

(式中、R, は低級アルキル基又は置換基を有していてもよいフェニル基を、R, は低級アルコキシ基を、nは2~4の整数を示す)で表わされる2~(4-フェニル-1-ピペラジニルアルキル)アミノー5-エチニルピリミジン

2. 次の一般式([])

誘導体。

(式中、 X はハロゲン原子を示し、 R , は前記と同じ)

で表わされる5-エチニル-2-ハロゲノピリミジン誘導体。

3. 一般式(1)

(式中、Riは前記と同じ)

で表わされる 5 ーアセチルー 1,2ージヒドロー 2 (1 H) ーピリミジノン誘導体にハロゲン化剤を反応せしめることを特徴とする請求項 2 記載の 5 ーエチニルー 2 ーハロゲノピリミジン誘導体の製造法。

#### 3. 発明の詳細な説明

#### (産業上の利用分野)

本発明は、血圧降下作用を有し医薬品として有 用な次の一般式 (皿)

$$H_{x}C = C \qquad \qquad R_{x}$$

$$N_{x} = C \qquad \qquad R_{x}$$

$$N_{x} = C \qquad \qquad R_{x}$$

$$C = C \qquad \qquad R_{x}$$

$$C = C \qquad \qquad R_{x}$$

$$C = C \qquad \qquad R_{x}$$

(式中、R: は低級アルキル蒸又は置換森を有していてもよいフェニル茶を、R: は低級アルコキシ基を、nは2~4の整数を示す)

で扱わされる2-(4-フェニル-1-ピペラジニルアルキル)アミノー5-エチニルピリミジン誘導体、並びにその合成中間体及びその製造法に関する。

## 〔従来の技術およびその課題〕

従来、式(田)のピリミジン骨格の5位のエチ ニル基がアセチル基である2-(4-フェニルー

$$H_zN - (CH_z)_n - N$$
 $(IV)$ 

$$HC \equiv C$$

$$N$$

$$NH - (CH_z) = N$$

$$N$$

(式中、R。は低級アルコキシ蒸を、nは2~4の整数を示し、Xはハロゲン原子を示し、R. は前記と同じ)

すなわち、5ーアセチルー 1.2-ジヒドロー2

1 - ピベラジニルアルキル)アミノー5-アセチルピリミジン誘導体が優れた降圧作用、血流増加作用及び血小板凝集抑制作用を有することが知られている(特開昭62-51672号)。

### [課題を解決するための手段]

斯かる実状において、本発明者は、上記ピリミジン誘導体の新たな誘導体を見出すべく、鋭意研究を行った結果、前記一般式(III)で表わされる新規化合物が優れた血圧降下作用を有することを見出し、本発明を完成した。

従って、本発明は、一般式(目)で衷わされる 2-(4-フェニル-1-ピペラジニルアルキル) アミノ-5-エチニルピリミジン誘導体を提供するものである。

更に本発明は、化合物 (II) を製造するための中間体である後記式 (II) で表わされる 5 - エチニル-2-ハロゲノビリミジン誘導体を提供するものである。

本発明化合物は、例えば、次の反応式によって 示される方法によって製造される。

(1H) ーピリミジノン誘導体 (1) にハロゲン 化剤を反応せしめて 5 ーエチニルー 2 ーハロゲノ ピリミジン誘導体 (Ⅱ) となし、次いでこれに (4 ーフェニルー 1 ーピペラジニル) アルキルア ミン (Ⅳ) を反応せしめて 2 ー (4 ーフェニルー 1 ーピペラジニルアルキル) アミノー 5 ーエチニ ルピリミジン誘導体 (1) を製造する。

本発明方法の原料化合物 ( I ) は、例えば、尿素、アセチルアセトン及び一般式

$$R_1 - CHO$$
 (V)

(R.は前記と同じ)

で表わされるアルデヒドを反応せしめて一般式 (VI)、

(式中、 R , は前記と同じ) で表わされる 5 ーアセチルー 1.2.3.4ーテトラヒ ドロー 2 (1 H) ーピリミジノン誘導体となし、次いでこれに酸化剤を反応せしめて脱水業することにより製造される。

化合物(1)から(I)を製するには、化合物(1)に、通常のハロゲン化剤、例えばオキシハロゲン化リンを反応させる。反応は加熱運流下に行われる。斯くするとき、反応の初期の段階で次の一般式(VI)

(式中、R,及びXは前記と同じ)

で衷わされる化合物が得られるが、更に反応を統けると、これは化合物 (I) に変化する。このための反応時間ば、R, の種類によっても異なるが、通常 15~40時間が好ましい。

化合物 ( I·) から ( II ) を製するには、適当な 溶媒、例えばアセトニトリル、メタノール、エタ

して 1 0 0 μ g / 0.1 m l / k g 宛注入した。 但 し、実施例 6、8、9、10及び11の化合物と してはメタンスルホン酸塩を、また実施例 1 3及 び14の化合物としては塩酸塩を用いた。その結 果は第1表のとおりである。

第 1 麦

実施例番号	血圧降下 (Δ, mallg)		
6	1 2. 5		
8	1 2. 0		
9	1 1. 5		
1 0	1 1.5		
1 1	7. 5		
13.	1 4. 5		
1 4	1 1. 5		

# (効果)

本発明化合物 (目) は優れた血圧降下作用を有 し、医薬品として有用である。 ノール、ベンゼン、トルエン、IPE、THF、ジオキサン、クロロホルム、CC ℓ。、ピリジン、 DMF、ニトロメタン等の溶媒中、化合物(Ⅱ) と(Ⅳ)を塩基の存在下反応せしめる。反応は退 流下の温度で、5~10時間で完結する。

斯くして得られる本発明化合物は、塩化水素酸、 臭化水素酸、硫酸、リン酸、硝酸等の無機酸又は 酢酸、プロピオン酸、蓚酸、コハク酸、リンゴ酸、 安息香酸、メタンスルホン酸等の有機酸の塩とす ることができる。

### (作用)

本発明化合物(町)について、体重3 kg 前後の雄性ウサギを用いて、血圧に及ぼす本発明化合物の影響を測定した。すなわち、ベントバルピタール麻酔下のウサギを、類部にて正中切開した後、ヘパリン含有生理食塩水を満たしたポリエチレンチューブの一端を右側頚動脈内に挿入した。他端は圧トランスチューサーに接続し、平均血圧の変化を記録した。被検化合物は水に溶解し、頚動脈に予め挿入しておいたポリエチレンチューブを介

#### (実施例)

次に実施例を挙げて説明する。

# 実施例 1

5-エチニルー2-クロロー 4,6-ジメチルピリミジン:

オキシ塩化リン500mを中に5-アセチルー4.6-ジメチルー1.2-ジヒドロー2(1H)ーピリミジノン97.0gを加え、15.5時間加熱湿流した。過剰のオキシ塩化リンを波圧下留法し、残油状物に氷水を加え、クロロホルムでも出出した。クロホルム層を飽和炭酸水素ナトリウム水で飲及した。波圧下溶媒を留去し得られた粘稠油状物をシリカゲルクロマトグラフィー(溶媒 クロホルム)にて精製し、機配化合物を63.2g併た、収率65%)。この結晶をnーへキサンにて精晶して融点108.0℃の無色針状晶を得た。

UV A EtoH nm : 248.8 (£ 13900)
202.4 (£ 6900)
194.4 (£ 4100)
188.0 (£ 4000)

IR v KBr cm-': 3220. 2100. 1530, 1265. 920, 675

'II-NMR ( 60MHz, CDC  $\ell$  3)  $\delta$  : 2.61 (6II, 3) 3.78 (1II, 3)

実施例2~5

実施例1と同様にして第2衷の化合物を得た。

以下余白

#### 第 2 表

実 施 例 番 号	2	3	4	5	
- R, -C <sub>2</sub> H <sub>5</sub>		-CH*CH CH*		-{_}-c e	
反 応 時 間	1 2時間	2 1 時間	1 9時間	3 6 時間	
収率 (%)	5 1	9 0	6 0	5 8	
融 点 (℃)	4 0. 0 ~ 4 0. 5	5 0. 2	120~121	1 5 7. 8	
EtOH UV Amax ns	248.4 ( £ 13300 ) 201.6 ( £ 6800 )	248.4 ( £ 13600 ) 203.2 ( £ 10000 )	293.6 ( & 9360 ) 244.8 ( & 24100 ) 203.2 ( & 19200 )	297.6 ( £ 11400 ) 248.8 ( £ 23600 ) 218.4 ( £ 11400 ) 204.4 ( £ 14900 )	
IR Vasx cm-t	3200, 2100, 1525, 1260, 930, 890, 690	3200, 2100, 1530, 1260, 920, 710	3200, 2100, 1510, 1490, 1290, 750, 680	3270, 2100, 1590, 1525, 1495, 1290, 785, 675	
'H-NMR (GOMHz, CDC £ 3 ) &	1.30 (3H, t, J=8Hz) 2.60 (3H, s) 2.96 (2H, q, J=8Hz) 3.77 (1H, s)	1.00 (6H, d, J=7Hz) 2.21 (1H, m) 2.63 (3H, s) 2.96 (2H, d, J=7Hz) 3.73 (1H, s)	2.72 (3H, s) 3.66 (1H, s) 7.51 (3H, m) 8.04 (2H, m)	2.71 (3H, s) 3.68 (1H, s) 7.39 (2H, d, J-8Hz) 8.01 (2H, d, J-8Hz)	

#### 実施例 6

2 - (2 - (4 - (2 - メトキシフェニル) -1 - ピペラジニル) - エチル) アミノー 5 - エチ ニルー 4.6 - ジメチルピリミジン:

アセトニトリル 5 0 m e 中に 2 ークロロー 5 ーエチニルー 4.6ージメチルピリミジン 2 0 g、 2 ー (4 ー (2 ーメトキシフェニル)ー1ーピペラジニル)エチルアミン 2.8 g及びトリエチルアミン 2.4 gを加え、7時間加熱湿流した。冷却後を加えクロロホルムで抽出し、水洗した。無水硫酸ナトリウムで乾燥後、波圧下溶媒を留去して銀水の砂造をシリカゲルクロマトグラフィー(複配とクロロホルムーメタノール)にて精製し、複配化合物を 4.2 g 得た(収率 9 5 %)。この結晶を n ーヘキサンにて再結晶した後の融点は 1 3 3.5 ℃であった。

U V A EtOH nm : 268.0 ( c 32800) 208.8 ( c 26600)

IR v KBr cm<sup>-1</sup>: 3240, 2940, 2800, 2100. 1590, 695

IR  $\nu$  KBr  $_{\rm max}$  cm  $^{-1}$ : 3480, 3270, 3180, 2290, 1640, 1605 'II-NMR ( 60MHz, D\_z0 )  $\delta$  : 2.72 (6H, s) 3.55  $\sim$  4.57 (12H, m) 3.99 (3H, s) 4.22 (1H, s) 6.93  $\sim$  7.62 (4H, m)

# 実施例8~14

実施例 6 と同様にして第3 衷の化合物を得た。 尚、R z は-0CII,である。

以下余白

'II-NMR ( 60MHz, CDC L 3) & : 2.44 (6II. s)
2.50 ~ 2.88 (6II. a)
2.88 ~ 3.30 (4H. m)
3.49 (1H. s)
3.52 (2II. q. J=5.5IIz)
3.81 (3H. s)
5.71 (1II. t. J=5.5IIz)
6.84 (4H. s)

#### 実施例7

2-(2-(4-(2-メトキシフェニル) -1-ピペラジニル) エチル) アミノ-5-エチニル-4.6-ジメチルピリミジン・3 塩酸塩:

2-(2-(4-(2-メトキシフェニル)-1-ピペラジニル)エチル)アミノー5-エチニル-4.6-ジメチルピリミジン2.2 gをメタノール50ml中に懸濁し、1 N塩酸水溶液18.1mlを加え、均一溶液とした。 波圧下溶媒を留去し、得られた残渣をメタノールーアセトンより再結晶して融点169.0℃(分解)の標記化合物を2.4 g 得た(収率85%)。

UV A EtOH nm : 264.0 ( 26300)

#### 類 3 表

実 結 例 参 号	8	9	1 0	11	1, 2	1 3	1 4
n	3	2	3	2	2	3	4
R,	-CR,	-C:H:	−C₂Hs	-CH*CH < CH*	-C>c2		<b>-</b>
4 <b>又 ≇</b> (%)	9 6	98	9 9	8 7	9 5	9 6	9 5
(7) 点组	7 3.5	1 0 9.5	56.0	8 7. 7	60	粘稠油状物	粘稠油状物
UV Ame no	268.8 (¢ 30500 ) 208.0 (¢ 25500 )	268.4 (±31500) 208.8 (±25100)	269.2 ( ¢31300 ) 208.4 ( ¢27300 )	268.4 (¢31500) 208.6 (¢26000)	340.0 (¢ 5230) 262.8 (¢ 31300) 207.6 (¢ 38200)	337.6 (¢ 3790 ) 273.6 (¢ 21400 ) 255.2 (¢ 21100 ) 206.4 (¢ 34200 )	338.8 (¢ 4610 ) 274.0 (¢ 25200 ) 254.0 (¢ 24700 ) 206.0 (¢ 39600 )
IR PARE CO-1	3225, 2940, 2825, 2100, 1570, 1530, 1500, 1240, 750	3200, 2940, 2825, 2090, 1560, 1520, 1500, 1240, 750	3255, 2930, 2810, 2100, 1585, 1570, 1525, 1500, 1240, 740	3250, 2950, 2820, 2090, 1590, 1570, 1500, 1240, 730	3270, 2940, 2810, 2095, 1580, 1550, 1500, 1240, 740	3270, 2940, 2810, 2100, 1590, 1560, 1520, 1500, 1240, 750	3260, 2930, 2800, 2100, 1550, 1500, 1240, 740
'н- NMR (60MHz. CDC £ 2) б	1.76 (28, m) 2.43 (68, s) 2.18~2.83 (68, m) 2.18~2.33 (64, m) 3.48 (14, z) 3.49 (28, q, J-68z) 3.29 (38, s) 5.86 (18, t, J-68z) 6.88 (48, s)	1.26 (3H, t, J-8Hz) 2.45 (3H, s) 2.50~2.95 (8H, a) 2.55~3.25 (4H, a) 3.56 (2H, q, J-5.5Hz) 3.64 (3H, s) 5.69 (1H, t, J-5.5Hz) 6.88 (4H, s)	1.25 (3H, t, J-8Hz) 1.79 (2H, a) 2.43 (3H, a) 2.20—2.52 (6H, a) 2.50—2.52 (6H, a) 3.50 (1H, s) 3.51 (1H, c, J-6Fz) 3.81 (3R, a) 5.93 (1H, t, J-6Fz) 6.86 (4H, a)	0.97 (6H, d, J-7Hz) 2.23 (1H, e) 2.45 (3H, z) 2.49 ~2.90 (8H, e) 2.90 ~3.22 (4H, e) 3.45 (1H, z) 3.54 (2H, q, J-5.5Hz) 3.84 (3H, z) 5.64 (1H, t, J-5.5Hz) 5.88 (4H, s)	2.54 (3H. s) 2.62~2.90 (6H. s) 2.90~3.32 (4H. s) 3.40 (1H. s) 3.62 (2H. q. J-5.5Hz) 3.84 (3H. s) 5.84 (1H. t. J-5.5Hz) 6.90 (4H. s) 7.37 (2H. d. J-8Hz) 7.98 (2H. d. J-8Hz)	1.83 (28.m) 2.53 (38.m) 2.33~2.82 (68.m) 2.33~3.23 (48.m) 3.36 (18.m) 3.51 (28.q. J-68.x) 6.08 (18.t. J-68.x) 6.65 (58.m) 7.33 (38.m) 7.33 (28.m)	1.62 (4H.m) 2.20~2.80 (6H.m) 2.52 (3H.m) 2.90~3.25 (4H.m) 3.38 (1H.m) 3.40 (2H.m) 3.81 (3H.m) 3.81 (3H.m) 6.86 (5H.m) 7.35 (3H.m) 7.35 (3H.m)

第1頁の続き

 ⑫発 明 者 東
 洋 埼玉県朝霞市根岸台7-12-1-202

 ⑫発 明 者 石 川 正 幸 東京都世田谷区赤堤3-14-3.